

議会改革推進会議「検討部会」会議録

令和7年10月17日

亀山市議会

議会改革推進会議「検討部会」会議録

- 1 開催日時 令和7年10月17日（金） 午後1時02分～午後3時48分
- 2 開催場所 第1・2・3委員会室
- 3 出席会員
部 会 長 福 沢 美由紀
副 部 会 長 今 岡 翔 平
部 会 員 古 田 吉 昭 櫻 木 善 仁 森 美和子
会 長 岡 本 公 秀
副 会 長 森 英 之
- 4 欠席会員 なし
- 5 事務局 議会事務局長 大 泉 明 彦 議事調査課長 新 山 さおり
書 記 山 北 康 仁
- 6 案 件
1. 第102回検討部会の確認事項について
2. 議会改革白書2025への掲載内容の確認について
3. 議題
 (1) 子ども議会の実施について（検討課題47）
 (2) 議会改革のまとめについて
4. その他
- 7 経 過 次のとおり

午後1時02分 開 会

○部会長（福沢美由紀君） それでは、お時間になりましたので、ただいまから103回議会改革推進会議検討部会を開会いたします。

それでは、まず事項1. 第102回検討部会の確認事項について、カルテへ追記しましたのでご確認いただきたいと思います。

内容について、事務局より説明をお願いします。

お願いします。山北主任主査。

○議会事務局員（山北康仁君） では、こちら画面と、それからタブレットと同じものを今表示させていただいておりますので、ご確認いただきたいと思います。

これは、47番の子ども議会の実施についての追記部分について、青字にさせていただいている部分についてお読みさせていただきます。

令和7年8月26日午前10時から、亀山市議会議場において、「令和7年度亀山市中学生議会」を開催し、交流会を実施した。

めくっていただきまして次のページ、こちらなんですけれども、今日と20日の推進会議のこと、未来のことになるんですが触れさせていただいております。今日とこの次の推進会議が一つの節目になるということもありますので、このように入れさせていただいているので、お読みさせていただきます。

令和7年度亀山市中学生議会のアンケート結果を取りまとめ、総括を行い、今後の子ども議会の実施について協議した。令和7年10月17日、第103回検討部会、令和7年10月20日、第46回議会改革推進会議。

説明は以上でございます。

○部会長（福沢美由紀君） 説明は終わりました。

ただいまのカルテの追記に関して、何かありましたら発言をお願いいたします。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） ないようでしたら、カルテはこのように更新いたします。

次に、事項2. 議会改革白書2025号への掲載内容の確認についてでございますが、今回は掲載する事項はありませんでした。

次に、事項3. 議題に入ります。

まず、子ども議会の実施についてです。

子ども議会については、昨年度に引き続き中学生議会として実施することとし、この検討部会で学校説明会の対応や当日までのサポートなどについてご協議いただきながら進め、去る8月26日に令和7年度亀山市中学生議会を開催し、無事に終わることができました。

本日は、中学生議会について、ご参加いただいた中学生、保護者、学校関係者を対象に行ったアンケート調査の結果についてご確認いただきたいと思います。

それでは、まずアンケート調査の結果について、櫻木議員、よろしいでしょうか。説明をお願いいたします。

○部会員（櫻木善仁君） それでは、令和7年度中学生議会のアンケート結果についてご報告いたします。

まず1ページ目は、回答者の内容になります。

学校関係者が4人で、中学生が7人、保護者が2人ということになっております。そこから中学生のアンケートのみを抽出しています。

まず、今回の中学生議会について満足していますかということで、満足しているということで、全員が満足しているという回答でした。

中身の記述内容としては、今回この中学生議員になった理由について記載してくださいということで、1つ目が、昨年先輩がやっていて楽しそうだったから、政治に興味があったということです。それから、先生から声をかけてもらい、気になったので中学生議員になりましたと。やったことがないからやってみたかった。亀山市を自分たちの力でよりよくしたいと思ったから。普通じゃ体験できないことでいい機会だと思ったから。貴重な体験だから。市議会の方々が学校を訪問された際に中学生議会に参加することに対する興味が湧いたからですというような内容でした。

それから、問3が事前に行った学校説明会についてお聞きしますということで、これもよかったという方が大半で、おおむねよかったという、合わせて全員がよかったという形になっています。

それから、発言通告書などの質問の作成についての議員が関わったことについてなんですが、これも同じように、よかったが大半で、おおむねよかったということで、全般的にはよかった方向にあります。

それから、5番目の一般質問を通じて自分の思いや考えを伝えることができましたかについては、少し伝えることができたというところがあるんですけど、おおむね伝えられたというふうに捉えてもいいんじゃないかと思います。

それから、次が問いの6番、質問に対する市の答えはどうでしたかということで、ここは少し、あまり分からなかったという方がちょっと1名いましたが、ほとんどよかったという形になります。

それから、中学生議会に参加して、亀山市のまちづくりへの興味・関心は高まりましたかということで、皆さんいい方向で、非常に高まった、少し高まったということで全員でした。

それから、中学生議会に参加して、亀山市議会への興味・関心は高まりましたかということで、これも同じく非常に高まった、少し高まったという形で、全員がよい方向に回答いただいております。

それから、問9です。昼食意見交換会について満足していますかということで、これも同じような形で満足している、おおむね満足しているということで答えていただいております。

問10は記述式で、中学生議会に参加してよかった点や改善してほしい点など、学校説明会、通告準備などを含めて感想をご記入くださいという問いでした。まず、すごく楽しかった。ずっと気になっていたこと、言いたかったことを伝えるいい機会になりました。通告準備をしているときに手伝ってくださった議員の方ありがとうございました。やったことのないことを実際に人前でできてよかったです。今回の通告を実際に考え、進めてほしい。たくさんの優しい方々と関わられた。地域の方との交流ができてとてもよい機会になりました。めったにない体験で思い出になったし、自分の意見を言葉にして相手に伝えることが身についた。亀山市について、より知るきっかけになったのでよかったです。中学生議会に参加して、より亀山市のことを知ることができたのがよかったです。自分の考える亀山市に対して気になっていることだけではなく、他校の中学生の意見も聞くことができ、よりいろいろな視点から今の亀山市について考えることができましたというようなご意見でした。

問11の今後も中学生議会など皆さんの声を聞く機会をつくったほうがよいですかという質問には、

全員が開催したほうがよいという回答でした。

それから、問12が亀山市中学生議会に対する意見、要望があれば記入してくださいということで、ここは中学生議会に参加するきっかけをつくってくれてくれた全ての方々に本当にありがとうございましたという内容でした。

それから、次が保護者の方で、問1が、今回お子さんが参加された中学生議会について満足していますかと、おおむね満足しているというのは2名です。

それから、問1で回答した理由についてということで、ここは、緊張して間違いがあった、パネルの質問の書き方に誤りがあった、いい機会であったからというような記述でした。

問3は、今後も中学生議会など皆さんの声を聞く機会をつくったほうがよいと思いますか、開催したほうがよいという意見でした。

今回、回答された方が傍聴されたか、傍聴されていないかということを確認したんですけど、1人の方が傍聴されていて、1人はされていないという形でのアンケートです。

問5は、中学生議会を傍聴してよかった点や改善してほしい点など感想をご記入くださいということで、ここは、子ども目線の要望や質問を聞けることと、それに対して親身に返答してくださったり、とてもよい場だと思いました。議会の雰囲気や進行の形などを知ることでもできてよい勉強になったと思います。今後も続けていただきたいと思います。

それから、学校関係者のところでは、

問1が、今回の中学生議会について満足していますかということで、全体を通じて満足している、おおむね満足しているという回答でした。

問2は1で回答した理由についてということで、生徒の表情が全てを物語っていると思います。参加した子どもたちにとってとてもよい経験になった、また自分たちの考えをまとめる活動を通じて、自分たちが住む亀山市について考えることができた。子どもたちにとってよい経験になった。亀山市について考える機会となった。内容には十分に満足しているが、学校現場にかかる負担は依然としてあるように思う。

問3です。事前に行った学校説明会についてお聞きしますということで、ここは全員よかったという意見でございます。

問3で回答した理由についてということで、ここは、未習の内容であるが生徒が納得して話を聞いたためということと、学年のみんなが亀山市について考えることができた。亀山市のこと、政治のことなどを聞くことができた。地方自治、議会の仕組みなどを学ぶとてもよい機会であったということです。

それから、問5は、質問に向けて議員が関わったことについてお聞きしますということで、これも全員がよかったという回答でした。

その回答された方々の理由について、問6になります。質問内容が昨年より進化したと感じたため。どのような内容をどれぐらいの量でつくるかアドバイスをいただいた、また質問に対する行政の回答なども予想していただけるなど、教員だけでは想像できないことも交えてアドバイスがいただけたということです。それから、昨年と比べて職員の負担がかなり減った、時間的に精神的に負担が減りよかった。中学生にとって新鮮であり、より具体的に地方自治を学ぶことができた。

問7は、今後も中学生議会など皆さんの声を聞く機会をつくったほうがよいと思いますかというこ

とで、全員が開催したほうがよいという内容です。

最後の問8のところになります。ここは中学生議会に対する意見ということで、要望があればということで、今年は準備からたくさん関わっていただきありがとうございました。このような行事は生徒たちを豊かにすると改めて感じさせていただきました。かなり昨年と比べて改善されましたし、午前中開催もよかったです。ありがとうございました。子ども議会として小学生での実施も必要というような内容でした。以上になります。

○部会長（福沢美由紀君） ありがとうございました。

今のアンケート調査の結果について、何かご意見等がありましたら順次発言をお願いします。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 努力した分だけ回答がすごくよかったなということで、生徒さんもそうですし、学校現場も負担が軽くなったということを言っていただいてよかったなって思うんですけど、一部依然として負担を感じているというのは少し気になる場所だなというふうに思いました。

でも、全体を通して非常によかったなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） そうですね。

お伝えし忘れました。

子ども目線で回答してくださってというお話もありましたけど、執行部が、答弁を子どもにこれで分かるだろうかということで教育委員会に、全部じゃないんですけど通して、それでもうちちょっとこういう表現にしたとかいうことを工夫して今年はやっていただいたというようなこともありました。そういう努力も実った結果になったのかなと思います。

アンケートについてはよろしいですか。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） ないようでしたら、今からも中学生議会のことを議論してきますので、含めてお話ししていただいてもいいんですけども、続いて、この中学生議会を実施して、通して気づいたことや感想など、ご意見がありましたらいただきたいと思うので順次発言をお願いします。

本当に最初の頃から準備とか、説明会に行ったこととか、調整のこととか、リハーサルのこととか、当日のこととか、今年は昼食を取っての交流会もありましたし、いろんなところを通して次につなげられるような反省、感想がありましたらありがたいと思うんですけども。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） そうしたら特にあれですね。人数を、例えば1回目は各学校で決めただけ、今年は縛りがなくて各学校違う人数でやっていただいた。あれはあれでよかったかなという感じでいいですか。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） よかったですね。

あとは変わったところといいますと、やっぱり議員がサポートに入ったところなんですけど、その在り方とか、当初やっぱり少ない人数で、同じ人が行くと偏ってしまってもいけないしということで、みんなが行って、みんなでサポートしようということで多分始めたように思うんですけど、あの在り方とか、今後またするときにはどうしたらいいとか、そういうのはありますか。

今後に向けて、今回ああやってやったけど、例えば人数とか回数とかやり方とか、特に今回のがよ

かったんじゃないということならそれでもいいんですし、もっとこうしたらよかったなというのがありますか。

(発言する者なし)

○部会長（福沢美由紀君） 今は、だからちょっとご意見が出ないので、今サポートについて、サポートの仕方、議員がサポートに入りましたやんか、各学校に何回も行って。あれはああいう形で、1回目はしなかったけど2回目でやらせていただいて、ああいう形でよかったかなという感じでいいですか。

何かもっと、次にするとしたらもっとこうしたほうがええんちゃうかというのがあったら、ちょっとまだ記憶に新しいうちにと。思って。

古田委員、お願いします。

○部会員（古田吉昭君） 説明は難しいんですけど、いろんな議員が入っていくと、ちょっと生徒さん、中学生議員の中にはちょっと訳が分からんようになった子もおったもんですから、ちょっと意見が飛んだというか、ちょっと頭の中がごちゃごちゃとなったように見える、言い方は難しいんですけどそういう子がおったもんで、1個目の形をつくって、これで質問しますというのをちゃんと決めておいて、あと誰が言っても肉づけできるようにすれば、そういうのができるのかどうかはまだはっきりとは言えませんが、そういった肉づけが簡単にできていけるような形でやったらええなど。ちょっとごちゃごちゃとなってもうておった子がおったと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 多分私が欠席していたときの話かなと思うんですけど、そのごちゃごちゃとなったのは、私たちの関わりにもちょっと反省もあるかなというところですか。

古田委員。

○部会員（古田吉昭君） いろいろ言うから、膨らみ過ぎて。

○部会長（福沢美由紀君） みんながいろんなことを言い過ぎて、かえって混乱をさせることもあったなあと。

古田委員。

○部会員（古田吉昭君） そうですね、流れだけつくっておいて、後は肉づけしやすいような形が。

○部会長（福沢美由紀君） ちょっとそこは注意してあげたほうがいいことはあったなということで。すね。ありがとうございます。

どうぞ、櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） テーマをつくる時がすごくやっぱり大事で、そのときに教育委員会、市側からもあったと思うんですけど同じような意見が重なるとか、そうするとやっぱり子どもたちは非常に困っていたので、テーマを決めるというのを3中学校合同か何かでやって、私たちはこんな意見があるなんてすると、何かもう少しあんまりかぶらんだり、先ほど何かいろんな膨らみ過ぎて分からない、迷走に入るとか、そういうことがなくなるんじゃないかなというふうには感じました。

○部会長（福沢美由紀君） テーマが重なってしまうというか、答弁側としては同じ人ばかり答弁するみたいなのは、どうしても出てしまったのは確かですね。

ただ、多分私たちは、今回はやっぱりこの質問にしたらとか、そういう誘導はしないでおこうと決めて頑張りましたんで、どうしてもそれはもう最終的には仕方がなかったんですけど、例えばそうやって合同でやったら、あの人がこれをするんやったら、私はちょっと違うところから見てみようかな

というようなことも、もしかしたらあったかも分らんということかな。そういう方法もあるかもしれないねということで、そんな感じでいいですか。

どうぞ、櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） 全体な話なんですけど、やっぱり今回の中学生議会がオープンになっていないので、ほかの市民に中学生議会で中学生が発したことというのはなかなか伝わらないかなというふうにすごく思っていて、今回本当に切実な、エアコンの話なんかはすごいやっておったと思うんですけど、そういうことというのはなかなかあの場でしか伝わらなくて、なかなか外に出ていかない。ようやく今度12月1日の広報では市民に知らしめることができるけど、だからやっぱり、個人のあれがあると思いますけど、やっぱり公開したほうが何かすごいいいかなというふうには思いました。

○部会長（福沢美由紀君） なるほど、公開のことも。

あと、どうですか。

ワークショップの在り方も、ちょっと1回目のときとは変わった形にしました。よかったと私も思いますけどね。

あとは、ちょっとすみません、私が参加できなかった議員がみんな出てこられて最初のテーマを決めるときの、そのときにワークショップをしたんですね。

（発言する者あり）

○部会長（福沢美由紀君） そこはどうだったんですかね。そこも盛り上がってよかった感じですか。

改めて、またもう一回やってもらったんですかね。

ああいう手続を踏んだのはよかったかなという感じで思ってよろしいですか。結構丁寧に、議員さんになってもらって、議員さんになった人を集めてワークショップをして、テーマを決める手助けになるようにということでしたと思うんですけど、あれがあってよかったなということですね。

あとはどうですかね。全体を通じて特に、みんなもう思い出して遠い目になっているんですけど。あそこはこうしたほうがいいかなというのが、もしあったら。

そうやね、昼からのお昼食を食べながらの交流会、あれはちょっと本当によかったなと。子どもたちも喜んでいましたけど、例えば本当に振り返りの時間みたいなのをきちっとそこで取ってもよかったんじゃないかというご意見も、ちょっと頂戴しているところですね、学校現場からね。やっぱり生々しいすぐのときに、ちょっとそういう感想を言い合うとか、そういう時間もきちっと取った上でレクリエーションみたいな感じでもよかったんじゃないかなというご意見もあったことをお伝えしておきます。

でも、もう本当にすぐに仲よしになって、ほかの学校の子とも、あったですね。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 質問が全部完成した後に教室の中で議会を一応やってみたという、練習の機会を設けたというのは、少し生徒さんにとっては練習になったのでよかったのかなという。

○部会長（福沢美由紀君） そうですね。

いろいろ思い出していただいて、かなり2回目は頑張って改善を重ねてきましたので、よかったかなという感想が多いんですけども、これぐらいにとどめておいていいですか。

森副会長、どうぞ。

○副会長（森 英之君） 去年参加して、今年は副議長という立場と一緒に同行させてもらうことが

多かったんですけど、中学生議員さんが混乱する場面があったというところにちょっと関わる部分があるかもしれませんが、ちょっと客観的に見ていた場合に、やはり議員の意向が強く入りすぎた部分があったのはちょっと感じました。なので、難しいんですけど、難しいんだけど、それを感じる場面が幾つかの学校であったのが、ちょっと気にはなっていたんですけども、それが1つちょっとあったのがということはありません。

あと、中部中学校さんが一番先やったかなと思うんですけど、ある程度何かもういろいろ考えてきてもらっていて、変えてもらっていた部分もあるので、それを質問数が多いんじゃないかと感じたんですけど、それもこちらで決めずにいったという部分もあるので、全部それでいきましょうということがあったもので、これがみんな中学校へ展開したら物すごく長い時間になるなど心配をしたんですけど、結果、それほど中部中学校さんみたいにたくさんということにはなかったのによかったんですけど、ちょっとそこをある程度時間とか、その辺をここで決めておかなかったところがあったのかなと。

結果、でもあれやったし、今回も2時間ちょっとかかりましたよね、ノンストップで。私的にはすごく一生懸命、興味もあったし、関わっていたし、一生懸命聞かせてもらったからあつという間に時間がたったんですけど、どうしてもちょっと客観的に見ると長くなってしまったのかなという部分はあったのかなということと、あと最初、始まる前もおっしゃっていましたが、今回は非常に目線を、執行部側も下ろしてもらった部分があって非常に答弁は分かりやすかった。それも教育委員会が答弁について少し手を加えていただいたということもあったと思うんですけど、すごくそこは執行部側の意図をちょっと感じたというか、きちっと降りてきてもらったというのがあって、それで感想としてはほとんどの方がみんなよかったということにつながったんじゃないかという気がしました。以上です。

○部会長（福沢美由紀君） ありがとうございます。

そうですね、質問の数は特に決めていなかったですね。

気づきましたら、また後からでもおっしゃってください。

そうしたら、先ほどいただいたアンケートやら今のご意見を踏まえて、中学生議会については整理させていただいて、今後は中学生議会とこたわらず、子どもの意見表明の場として子ども議会をどのように行っていくのか、市長部局や教育委員会や学校関係者との調整も必要ですが、検討部会においては協議して、最終的には議会改革推進会議でご確認いただいて決定していきたいので、この部会の合意というか一定の意見をまとめたかなと思うんですけども。

各会派でもちょっとご意見をいただいていると思いますので、どこから言ったらいいかというのは、本当にいろんな切り口がありますので難しいんですけども、来年も実施するかどうかというところは入れながら、ちょっと各部会員さんから発言をいただけるかな。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） 新和会ではちょっと話をしたんですが、実際子ども議会に直接その中に入っていないので、ボリューム的なところとか、部会員以外のメンバーはどちらかといったらもう外野的なところがあって、なかなか中身まで入っていないので、どうこうということをなかなか発言はしづらいというような、ちょっといろいろ話をしておったんですけど、いいのはいいんですけど、そんないいか悪いかという判断というのはなかなか外野的には難しいので、まずこの部会の中である程度のことを出してもらって、どうですかという提案をいただきたいというのがうちの会派の中で話し

合った内容です。

○部会長（福沢美由紀君） 正直なところやな、正直な。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） うちの会派は意見は正直割れていまして、ほかに議会の中でやる大きなことを差し置いてでもやっていくべきだという意見、いい機会だからこれは続けるべきだという意見と、中学生議会しかしていないよねと、ほかにも議会改革でしなければならない案件があるけれども、ええことはええことやけど、時間とかパワーがかかり過ぎていないかという意見を会派の中ではもらっています。

○部会長（福沢美由紀君） 森委員。

○部会員（森 美和子君） うちも最終の議会のときにしか携わっていないので、なかなか分かりづらいという。

去年は新さんもちょっと関わっていただきましたけど、もう部会員で一旦決めていただいたらという形でした。

○部会長（福沢美由紀君） 古田委員。

○部会員（古田吉昭君） 似ていると思うんですけども、基本継続していったらどうやという意見と、取組としては継続しながらも、子どもの意見表明の機会をつくるという意味ではワークショップその他の形に変えてもいいんじゃないかという意見も出ました。事務局と部会員の負担もちょっと大きいんじゃないかという意見もあります。

○部会長（福沢美由紀君） 私どもの日本共産党としても、一旦ちょっと検証みたいなことをしたらどうやと言われて、私的には、だからといって1年休んじゃうんかな、ちょっと本当にそれがいいのかどうかという、何かしらつないでいきたいなという思いも持ちながら、会派としてまとまりのないことになりました。皆さんご一緒ですけど。

ですので、会派の意見はもうよろしいので、皆さんのご意見をさらに頂戴したいんですけども。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 中学校に出向いて、3年生全てにワークショップで関わらせていただいて、それはよかったんだと思うんですけど、議会という形にしてしまうと一部の子たち、その一部の子たちだけ、15人の子のみの発表の場になってしまうということが、すごいいい経験になったと言っていて非常によかったんですけど、じゃあ小学校はどうなのか、高校生はどうなのかということまで、やっぱりしっかりと子どもたちの意見を聞くのであれば、そういう機会をやっぱり持っていったほうがいいんじゃないかなあとと思っています。

議会形式という形で続けるというのも、うちとしては隔年ぐらいでいいかなと思っていますが、じゃあそれは議会の私たちの都合であって、関わってくれた子どもたちは次もやってほしいみたいな感じの意見がさっきアンケートの中で出ていたので、非常に苦しい。子どもたちの思いをどうやってつなげていくかということに関しては、すごい難しいなと思うんですけど、私としては隔年ごとでお願いできたらと思うのと同時に、小学校、高校というところに広げてやっぱり子どもたちの意見を聞く場をつくっていくことが必要だなと思います。

それから、いつまでも検討部会でもうこの中学生議会を抱えていないで、広聴広報のほうにバトンタッチしていくことが必要かなというのをもう一つはと思っています。

最後に1つ、やっぱり先ほど会派の中の意見がこのようにあったとおっしゃっていましたが、やっぱり関わっていない方にとってはなかなか分かりづらいというか、だから私は広聴広報委員会がルールとか取組の内容とかというのを決める機関として、あと出ていくのは全ての議員がやっぱり関わっていかないといかんのかなと、そういう何か仕組みができないのかなということを思いました。

○部会長（福沢美由紀君） 今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） 中学生議員になって傍聴に来てくださっていた保護者の方とちょっとお話をする機会があったんですけども、弟さんが見に来られて、弟さんがすごい感銘を受けて、自分が中3になったときは中学生議会に出ると言っておるという話を聞いたときに、給食の議論とかでもよく言いますが、我々にとっては2年おきとか隔年なんですけど、このアンケートで見る限り、来年は自分らが出るよと待っている子とか、そういう子とかがおったときに、本当に同じ表現なんですけど心苦しいなというのは感じますね。

でも、私はどっちかという、もうやる気のある、どんだけでも時間使うわ、どんだけでも足運ぶわという人のチームで中学生議会をこれからも進めていったほうがいいかなと自分は感じるほうです。やっぱり時間とか事務局、部会員にかかる負担というのもしっかり考えていかないといけないかなというふうには感じました。以上です。

○部会長（福沢美由紀君） 古田委員、どうぞ。

○部会員（古田吉昭君） まず、自分のあれでいうと、議会を続けるというのはいいとは思いますが、メンバーがこのまま一緒やったらということで、多分もう一回やったとしたら今度またグレードもぐんと上がると思うんですわ。これメンバーが替わったときには、ちょっと不可能な状態も出てくるんじゃないかなと。そういう意味では、皆が関わる、みんなが関わってやれるような仕組みをつくれば、グレードアップしていても分担してやっていけるんじゃないかなと思いますし、ただ、今言うた15人しか関われやんという部分もありますので、もうちょっと広く事業ができるようなワークショップも一考かなと思いますね。

○部会長（福沢美由紀君） 櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） まず、アンケート結果から見たら、やらなあかんというのはもう結果としては出ていると思います。アンケートに答えた人らは、参加した人も、この中で何で中学生議会に今日出たんですかといったら、昨年の先輩がやっていたのを見た、継承してくることが大事なんで、やっぱり続けていくということは大事で、アンケートの結果からはやるべきやと思っておる人がおるやで、受ける側の議員がそれに対してどうやってやっていくかということを考えなあかんというふうに僕は思います。

まさしくこういうことが議員の仕事やと僕は思っているんで、やっぱり広聴広報なんかで、森委員が言われたように広聴広報である程度のもを決めて、全員でやっていくというのが一番理想的かなというふうには思います。ですから、とにかく僕はやるほうなんで、やったほうがいいと思います。

これはもう10年も20年もやっておって、マンネリ化したで見直そうかというんだったら分かるんですけど、まだ2年目なんで、もう早くも見直すような時期じゃないと思いますので、少なくとも3年やって、どういうふうにやっていくかということをやったほうがええかなと。ここでもう早くもワークショップとか変えるよりは、もうちょっと続けたほうがええかなというふうには思います。

○部会長（福沢美由紀君） いろんな意見が出ていますので、到底一つにまとまりそうにないわけなんですけど、要するに来年はこのまんまで続けようという意見と、ワークショップ、要するに私たちが出前授業というか学校説明会で行ったあの議員になりませんかというところ以降はカットして、例えばワークショップをみんなでした部分をちょっと膨らませた感じのものを、例えば小学生、例えば中3にしても議会という形じゃなくてもワークショップ形式までで意見をまとめたり、それを返したりするというのは、それをもって議会と銘打っているところもありますのでね、そういう意見を聞いて、こんな意見が出ましたと提案しますみたいなところとか、落としどころはいろいろだと思うんですけど、議会という形にしない形もあるんじゃないかみたいなことかなと思うんですけど。

それと、出ていたのが広聴広報へバトンタッチをするか否かという問題と、あとほかの議員が関わる仕組みをつくるべきだという意見と、やっぱり副部会長なんかは割とコアな、やる気のある、今回のような形で分かった人間でやっていくということが大事かなという意見だったんですね。

1つ言わなあかんのがアンケートですね。子ども議会を来年もするべきかという書き方ではなくて、皆さんの声を聞く機会をつくるかどうかという聞き方をしています。私もこれをずっと続けられるかどうか分からんと思ったのでそういう書き表し方にさせてもらったと思うんです。だから、子どもたちが望むのが議会なのか、聞いてもらうことなのか、そこもちょっと分からないけど、経験としては議会しか知らないの、議会に出た子からしかアンケートを取っていませんので、例えば皆さんから、学校説明会で意見を出したけどどうでしたかという問いかけはしていませんので。

みんなが関わる仕組みというのは、例えばこれを現実的にやろうとすると、その仕組みを今年いっぱいかけてつくるということですかね。それはどういうスパンで皆さん、みんなで関わる仕組みをつくって、かつ来年度何かをする。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 広聴広報にバトンタッチした中で、広聴広報が中心となってやるんですけど、出前講座みたいな形で出ていくのは、議員が出ていくという議会をするとは思っていなかったの、出前授業に対して全議員が関わるというようなイメージでございました。

○部会長（福沢美由紀君） なるほどね。

議会をすると思ってみえる方と、もうワークショップ形式のあそこまでいいんじゃないのかなとおっしゃる方の2つあると思っていいますか。意見はそう分かれているという感じですか。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） 何かそんな感じですね。

僕はどっちかといったら議会をやる立場というか、したほうがええなあと思って、広聴広報のほうで先ほど言われたように、私たちが出前講座というか、あれに行ったときは皆さんに行っていて、その後のフォローアップも皆さんで行ってもら。議会はもう前回と同じような形でやるということで、今までこの部会の中で学校に行っていた回数だとか時間を全員で割り振るというような意味合いで、どちらかといったらチーム議会みたいな、チーム亀山市議会みたいな感じで、チームとして盛り上げていくみたいところで団結していったらええかなというふうに思うので、そういうふうに思っています。

○部会長（福沢美由紀君） 櫻木さんは議会もすることを前提に、出前授業というワークショップの在り方をみんなですということですよ。

だから、私たちがみんなで分担して、皆さん生徒さんにお話をさせていただいたわけですが、テキストでもって。あれもみんなですという意味ですか。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） はい、そのような形で、できたら全員が関わってほしいなというふうに思います。そうすると、みんなが子どもたちの意見もそこで皆さんが共有できるので、外野じゃなくてもみんながチームとして入っていただきたいなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 森議員。

○部会員（森 美和子君） 小学生も高校生も含めてのことを言っていたので。

○部会長（福沢美由紀君） イメージしてたんやな。

森委員。

○部会員（森 美和子君） そうそう、イメージしていたので。

○部会長（福沢美由紀君） そうですな。まずは、櫻木さんは、だから同じ中3で同じようにもう一回、来年度も中学生議會をするという立場の下、そういうふうにやり方云々も同じようにするわけではなく、やり方についてはちょっと変えて3回目をするという。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） そういう形で、今3年間と言ったのは、中学校は3年あるので3年間やってみて、その後にこれをやっぱりフィードバックとして皆さんに聞いて確認して、これは中学生だけでやったほうがいいのか、小学校とか高校にやったほうがええのかということをお皆さんに聞いて、4年目とかには、やっぱりそういうところでアクションを起こしてやっていけばええかなというふうに僕的には思っています。

何かアンケートも、結局議會しか知らない人にアンケートしておるのやから、などのなどって分からへんで、例えばこれをワークショップをした人たちにすると、その人たちは議會を経験していないので、ワークショップについて多分答えてくると思うんです。ですから、そういうところを考えたら、ちゃんとこういうのはどうでしょうかということを確認した上で次に進めたほうがええと思います。

ちょっと最初から決めていないですけど、どちらかといったら3か年計画でやってみて、次の3か年はどうするかというふうに決めていったほうがええような気がします。

○部会長（福沢美由紀君） ほかの皆さんどうですか。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） 来年同じようにするかどうかというところで、まずご意見を頂戴しましょうか。

どうぞ、櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） ちなみに、これを誰かがやめておけ、反対やという声がないんだったら、やっぱり前に進めたほうがええなと思います。

例えば、教育委員会がとんでもないよこれとは、こんなことしてもらったら困るというとか、執行部のほうも、こんなただでさえ年4回の議會で大変なのに5回も入れてもらったらこんな大変やんかということであれば、もうやめておかなあかんか分からんけど、次の手段を考えなあかんと思うけど、何かないのに次の手段って先に考えやんくても、今動いているところはそのまま動かしたほう

がええかなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 森委員。

○部会員（森 美和子君） 櫻木委員の熱意に引っ張られそうですけど。

例えば、質問は1個という形で決めるとか、質問を出し合うのもかなりやっぱあそこも労力要ったよね、何か自分が聞きたいこととかというのを出してくるというのも、2つも3つもというよりも1つをしっかりと固めていくというか深掘りしていくというか、そういうやり方をして、ちょっと労力を減らすみたいな形はどうかと。

広聴広報に私はもうバトンタッチするべきやと思うんですけど、その中で、このカルテが子ども議会となっているので、子どもたちの意見表明の場、そういう書き方じゃないから、子ども議会というのは議会というね、だから小学校や高校へ行くという子どもたちの意見を集約するということが子ども議会に当たるのか、そこら辺がちょっと何か整理できないという。

本来は広聴広報に渡して、広聴広報の中で来年は1つの質問でやったとしても、その次の年には子どもたちの意見表明の場をどう確保していくのかということのを来年話し合っていたきながら次の年につなげていくという形はどうかと思うんです。

分かる。

○部会長（福沢美由紀君） 取りあえず、やるんやな。

森委員。

○部会員（森 美和子君） そうしたらどうかという。

私も執行部や教育委員会から強い反発があるのかなと思ったらそうでもないような感じで、すごいこのアンケートがもうやっぱり……。

○部会長（福沢美由紀君） 大きいですね。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 本当にみんなが100%に近い数字が出ておるとするのはやっぱり非常に大きいし、関わった私たちも達成感はすごくあったんですけど、難しい。私もいつまでやるのという感じやけど、櫻木委員が言うには3年でという話やから、そこに乗っかってもいいかなと。ただ、質問は1個という形にしてもらおうということかなあ。

○部会長（福沢美由紀君） 子ども議会というのをやる、それを中学生議会としてやりました。それは何でやるかというところで子どもの意見表明というのを大事にして、その機会にしていきたいという組立てでしたね。ですから、議会改革のカルテとして、私たちは議会として何をするのかというところでは子ども議会しか書いていないんで、それやったら議会をするわけでしょうということになりますよねということですね。

森委員。

○部会員（森 美和子君） それがまた子どもの意見の表明というのをカルテに起こすというのも、また何かおかしなあれで。

○部会長（福沢美由紀君） 広聴広報に移管することで……。

（「委ねて、そこで……」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） 委ねることで、そこでどんな広聴機能を発揮しますかというところを考えていただく中で……。

（「それは可能ですよね」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） それはありかなとは思いますがね。

だから、ここではそう言われたら議会をするかどうかということの議論をまずしたほうがいいのかな。

要するに、でも皆さん、みんなでやったらと私は思っていますが、みんながやりたいかどうかとか、そのとおりやりましょうということに決まるかどうかはまだ分かりませんがね。今も会派から聞いてもらった意見も分かれていますので、なるほどそういきましようかというふうになるかどうかというのはちょっと疑問ですけどね。例えば、先ほど議会は隔年ぐらいにしたらどうかという声も1つありました。

いつするというのは決めずにやってきましたので、3年するのも決めていないし、2年でやめるのも決めていないし、隔年かどうか決めていない。何にも決めずに取りあえず次どうする、次どうするというで頑張ってきました。

やっぱりいろんな部署の負担とかを思うところだと思います。全くなかったというご意見でもなかったと思うんですけどね。やっぱりどうしても質問が割と固まりましたので、固まった部署は答弁調整とかは大変だったんだらうな執行部もと推察されますけどね。教育委員会としても、やっぱりあの授業については大絶賛でしたので、それはもう1年目のときでもそうでしたけど、これは続けていたきたいというようないろんなエールはいただいておりますが。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） やっぱりこのアンケートからも期待度というのはすごく高いと思うので、この期待を裏切るとはやっぱりしちゃいけないと思うので、やっぱりつなげていかなあかんというふうには僕は思っています。

（「休憩しましょう」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） もう1時間たった。

それでは、ちょっと暫時休憩させていただきます。

午後1時59分 休 憩

午後3時25分 再 開

○部会長（福沢美由紀君） 休憩前に引き続き部会を再開いたします。

先ほどまで、2回中学生議会をやってまいりましたが、今後どうしていくかということの議論の途中でした。

皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。来年どうするか、あるいは検証はどうするのか、皆さんのアンケートの結果もありましたし、今ちょっと事務局が少ないということもあるし、あとは様々なこの部会でやらねばならないこともたくさんある中で、どうやってこなしていくかという問題もございいます。忌憚のないご意見を頂戴いたしたいと思います。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） 今の状況を見ると、やはりいろんな検討部会でやっていかなきゃいけないオンラインのこととか条例のこと、そしてBCPのことというのがまだ山積みになっていますので、いろんなイベントを重ねるよりは、まずこれを部会として優先をするというところで、一旦この2年間やったところの検証を含めて、次年度に新しくなるところで橋渡しをしていくということを今回こ

の部会として決めていったらいかがでしょうか。

○部会長（福沢美由紀君） この1年間は、続けてやるということではなくて、検証やそれを通して、次にまた議会であったり、子ども議会であったり、子どもの意見を聞く機会であったり、どんな形にしていくなのか、仕組みも含めてきちんとやりながらカルテの項目をしっかりとこなしていく1年にしていこうという意味のご意見だと思います。

ほかの皆さんはどうですか。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 非常にいい流れで中学生議会はできてきましたけど、ここらで櫻木委員のおっしゃるように、まずは検証し、それから検討課題がたくさん残っていますのでそこもこの部会でやっていかなあかんことですので、そこもしっかりと結論を出していくということをこの1年かけてやったらいいと思います。

○部会長（福沢美由紀君） ほかどうですか。

古田委員。

○部会員（古田吉昭君） 私もお二人の意見に賛成で、中学生議会としましてはすばらしいものでしたけれども、ほかの検討課題もあるということで、まずはこういったものをしっかりと終わらせないといけないと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 今岡副部会長もいいですか。お願いします。

○副部会長（今岡翔平君） いろいろと課題を持っている部会ですので、もちろん中学生議会のやりがいとか実績というものはあった上なんですけれども、やっぱりほかに取り組んでいくべき課題があると思いますので、1年休むということがよろしいかなと思っております。

○部会長（福沢美由紀君） それでは、皆さんから、来年度については検証やら次につなげていくための、子ども議会についてはそういう年にするというご意見だったと思うんですけども、それでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） 中学生議会でも、小学生の意見も聞いたらどうやとかいろんな課題が出ていましたので、あとはその広聴広報につなげられないのかとか、あともっとたくさんの議員で取り組めないのかとか、いろんな課題もあるかと思いますが、そういうことをどうやっていくんかということも含めて、まるでもうお休みということではなくて、必ず次のときにはすぐに取りかかれるように、議論も忘れずにしていくということでよろしいですか。

（「はい」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） それじゃあそのようにさせていただきたいと思います。

次ですけども、議会改革のまとめについてでございます。1年間のまとめを事務局から説明をお願いいたします。

山北主任主査、お願いします。

○議会事務局員（山北康仁君） では、資料3、こちらをご覧くださいと思います。

これは、今取り組んでいる、着手中であるカルテであったり、未着手になっているカルテについて色分けでしておりまして、ピンク色が着手中、白が未着手のカルテになっております。完了したもの、完了予定のものというものが今時点でございませんので、青色のカルテというのはございません。

特に、今年度検討してきた課題としまして、赤丸をしてございます。この３１、４７、４８、５０のこのカルテでございます。３１に関しては、本条例、基本条例の目的達成の検証の在り方について。それから４７は先ほどまでお話ししていただきました子ども議会の実施について、４８がオンライン会議の実施について、５０が議員の介護休暇及び育児休暇についてということで、４８と５０は２つで１つのような形で今、３１もそうですけれどもプロジェクトチームをつくってご議論いただいているというところでございます。

昨年度中の検討の内容としまして、このような形で四角のテキストボックスで、このようなことをしてきましたということで書かせてもらっていますが、特に赤丸を振らせていただいた３１番と４７番、４８番、５０番についてお話しさせていただきます。

書いてあるとおりではございますが、３１、基本条例の見直しの関係に関しては、災害や感染症等の危機管理の対応や障がい者への合理的配慮の視点から、条例の全体の見直しについて検討した。今後は令和８年中の改正に向けて協議を進めるということで、今協議中であるということでございます。

それから、４７、子ども議会に関しては、子ども議会の実施については中学生議会を開催することとし、市長部局及び教育委員会、学校関係者と協議を重ね、調整しながら、具体的な実施手法やスケジュール等について協議。令和７年５月に部会員が各学校へ出向き、議会出前授業を実施。令和７年７月には質問準備のサポートを行い、令和７年８月２６日に「令和７年度亀山市中学生議会」を開催したということでございます。細かなスケジュールとしましては、このように５月下旬に各中学校で議会出前授業を開催、６月下旬から７月下旬にかけて各中学校を訪問し質問の準備をサポート、８月２６日、同じことですけれども７年度亀山市中学生議会を開催したということでございます。

続きまして、４８番のオンライン会議の実施についての部分でございますが、委員会条例を改正してオンライン会議を可としましたが、一度もまだ実施をされていないので、今後実施し、課題などを検証する必要がある中、オンライン会議の対象として感染症以外に育児・介護等で出席できない場合などについてもオンライン会議の開催を可とするための検討を行われたと。引き続き制度設計に向けて協議を進めていくということでございます。

同じような話になってくるんですが、介護・育児等が両立できる環境整備の検討というところに関しましても、お読みしますと、会議規則で規定した欠席理由等について、オンライン会議の対象として感染症以外に育児・介護等で出席できない場合などについてもオンライン会議の開催を可とするため、介護や育児等が両立できる環境整備のための運用指針について検討した。引き続き、制度設計に向け、協議を進めていくと、これも協議が続いていくという形になってございます。

簡単にではございますが、資料３については以上でございます。

続いて、資料４。白書でございます。

こちらをご覧くださいますと４３７ページございますもので、全て全て説明することはちょっと難しいですので、今回、２０２５の白書としてどのようにさせていただいているかというのを簡単に説明させていただきます。

めくっていただきまして目次なんですけれども、大きく構成は変わっておりませんが、１番、２番、３番、４番、５番ということで、大きく５つに分けて資料が作成されております。１番は各会議・委員会の活動報告ということで、（１）から（１１）までの委員会であつたり協議会であつたりの活動内容が、いついっかどのような協議をしたというようなことを記載してございます。

それから大きな2番、こちらが各会議・委員会での決定事項ということでございます。こちら、ちょっとご覧いただきたいと思います。

決定事項ですね。26ページですね。

各会議・委員会の決定事項ということで、(1)議会改革推進会議、(2)議会改革推進会議検討部会のほうで、子ども議会を令和7年度についても実施するということを決定されたということで記載していただいております。

(3)議会運営委員会では、請願の取扱いについて少しお話があったところがありました。これは、請願書の記載内容及び個人情報の取扱いについてということで、お読みしますと、請願書の取扱いについては、原則公開であるが、希望する請願者については住所の一部を非公開とする。また、請願文書表と審査報告書については、希望の有無に関わらず、請願者の住所は市町村名までを記載することとし、委員会審査における請願内容の朗読についても市町村名までとするという決定をされております。

(4)の広聴広報委員会でございますが、これは、議会だよりの発行のタイミングのことであったりとか報告番組の更新のタイミングについての決定をされた部分になります。お読みしますと、議会だよりについては、令和7年10月1日号から広報「かめやま」の発行が、現在の月2回発行(1日号及び16日号)から月1回発行(1日号)へ変更することに伴い、同様に月1回発行(1日号)とし、次のとおりの発行日とすると、ご覧の発刊号となっております。

また、議会報告番組については、令和7年5月1日から行政情報番組の更新が毎週更新から月2回(1日または16日)の更新へ変更することに伴い、定例会日程に合わせて調整した放送開始日とするということで、決定事項としてそれぞれ上げさせていただいております。

それから、大きな3番、議会改革の取組なんです。こちらは所管事務調査の内容であったりとか、そういったものを記載していただいております。中でも、これ2025年の議会改革の取組ということで、完了した検討課題、着手中の検討課題について上げさせていただいている中で、着手中の検討課題ということで、先ほどのスケジュールの中にも触れさせていただきましたことについて上げさせていただいております。こちらもお読みしますと、議会基本条例の検証及び見直し手続の手順書の作成等についてということで、「災害や感染症等の危機管理の対応」及び「障がい者への合理的配慮」に関する規定を追加する条例の見直しについて、プロジェクトチームを設置し協議を進めていると。オンライン会議の実施については、災害や感染症以外の育児、介護等の会議規則に規定する欠席理由などで、オンライン会議を開催できるよう、プロジェクトチームを設置し協議を進めている。

次のページに行きまして、議員の介護休暇・介護時間及び育児休暇についてですが、育児や介護等の、会議規則に規定する欠席事由などで、オンライン会議を開催する場合の具体的な運用基準や、オンライン会議に関する申合せの作成について検討するとともに、育児、介護、看護等やむを得ない事由によりオンライン会議を開催している他市議会の運用等について調査し、協議を進めている。

次のページになりますが、子ども議会の実施についてということで、亀山市議会では、次世代を担う子どもたちが、行政や議会の仕組みを学ぶことで市政への関心と理解を深めるとともに、意見の調整や発表の機会を通して社会的活動への参画意識を高め、子どもたちの自由な発想や視点からの意見や提言を市政の参考とすることを目的に令和7年度亀山市中学生議会を実施した。実施に当たっては、事前に議会出前授業を開催し、議員が各学校へ出向き、子どもの権利条約、亀山市の概要、亀山市及

び市議会の仕事、地方自治の仕組み、二元代表制、議員の仕事、中学生議会の開催についてなどを説明したということでございます。

あとほかには、次のページに移っていくわけなんですが、中学生議会の出前授業のことであつたりとか中学生議会の実施内容について触れさせていただいておるところです。

ここから以降は大変多いページ数になるんですが、基本的にはカルテ、着手中のもの、完了したものの、未着手のものであつたりとか、あるいは広聴広報の取組の部分で議会だよりですね、この1年間で発刊してきた議会だよりであつたり、「こんにちは！市議会です」の番組の原稿であつたり、そういったものが最新のものになっておると。

それから、参考資料ということで、最後、これまで行政視察で取り組んできております主に尋ねられる内容の多いものとして議会改革の取組のことであつたり、議会改革推進会議の取組のことであつたり、この視察で使わせていただいているような資料について、昨年度同様につけさせていただいておると。政策条例の制定に向けた取組内容についてという項を1つ増やさせてはもらっておるんですけれども、こういった形で参考資料ということで設けさせていただいております。

すみません、少し長くなりました。白書については以上でございます。またご覧おきいただきたいなと思います。

最後、要覧ですね。

これも、皆さんご覧いただくと、各所に赤字で入れさせていただいているものがございます。こちらが、この要覧の中で追記をしていったものになります。例えばこの令和6年11月から令和7年10月のこの内容、このページだけちょっとお読みしますと、令和6年12月亀山市議会会議規則及び亀山市議会委員会条例を一部改正し云々ということでございます。このような形で各所に、随所に赤字で新しく増やした、追記した部分について記載をさせていただいておるところでございますので、こちらにもまたご覧おきいただきたいなというふうに思います。

いつもこの要覧とこの資料5-2として例規集というのを、今回もちょっと同じようにさせていただいておるんですけれども、この例規集ですね、今まではこのPDFの形でSideBooksにこのように全てをがちゃんと合体させたような形で設置をさせていただいておったんですけれども、使い勝手が少しよくないのかなというふうに思いまして、ちょっとモニターをご覧いただきますと、議会のフォルダーのところに要覧及び例規集というものがあって、まだこれを例規集（案）としてさせていただいているんですけれども、それぞれの例規がこのようにそれぞれでアクセスできるように、ちょっとSideBooks上の設置を工夫してみたというところがございますので、このような形で、これからは最新のものが出来上がっていけばここに掲載していくというようなことも一つなのかなというふうなことで、すみません、ちょっと提案みたいな形になってしまいましたけれども、このような形で例規集を取りまとめさせていただいておるところでございます。

資料3、4、5についての説明は以上になります。

○部会長（福沢美由紀君） 以上で説明は終わりました。

先ほどの説明について何か確認などありましたら、順次発言をお願いします。

今の要覧の上げ方についても、これでいいんじゃないのというのであればいいですし、更新もしやすくなるということですかね。

いいですかね。

(発言する者なし)

○部会長(福沢美由紀君) それじゃあ、このような形で20日の議会改革推進会議でご確認いただき、1年間の議会改革のまとめとさせていただきます。

その他の項でございますが、先ほどちょっと中学生議会のことで1個言い忘れたんですけれども、子どもたちの議会の会議録を今作成しつつあるところです。完成しましたら、会議を開催せずに、完成したらもう事務局からメール等で皆さんに送付させていただきますので、今日まだちょっと完成していませんので、完成し次第メールで送付させていただきますので、ご確認いただきたいと思います。そして、ご確認いただいた上でアンケートの調査結果と会議録を市長部局、教育委員会、学校へそれぞれお持ちしたいと考えておりますが、そのようなことでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○部会長(福沢美由紀君) それでは、そのように進めていきたいと思います。

もう動画は早くにお渡しいただいたということで、たった十何人の子どものことやないかという話もさっきありましたけれども、こういう会議録であるとか動画であるとか、あとワークショップで、できるだけたくさんの方の子どもたちに波及するようにということで工夫をしてみましたので、もしそういうことを言われたら、そういうことの説明もぜひ皆さんからもお願いしたいなと思います。

次、もし例えば、今からPTもちょっとやらせていただきたいんですけども、もしまたもう一回集まろうかという可能性が出ましたら、子ども議会はないのでないのかも分かりませんが、一応、何かもう今度の全協の午後しかないのかなと今見ているんです。もうないですかね、どうですかね。

(「オンラインとかね」の声あり)

○部会長(福沢美由紀君) オンラインとかね。多分、今日は何か思い出だけで精いっぱい分かりませんので、今までの経過を。

いいですか、11月20日の午後は空けていただけますだろうか。

検討部会として、PTも含めですけどね。全協が午前中にあるんで、検討部会も含め、PTも含め、ちょっと空けていただけますか。

(発言する者なし)

○部会長(福沢美由紀君) よろしく願いいたします。

本日の案件は以上でございますが、ほかに何かありませんか。

(「なし」の声あり)

○部会長(福沢美由紀君) なければ、以上で議会改革推進会議検討部会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後3時48分 閉 会

この会議録は正当であることを認め、ここに署名する。

令和 7 年 10 月 17 日

議会改革推進会議検討部会長 福 沢 美由紀